



Autumn 2018

Vol.2

定価980円

2018年秋号

(季刊20日発行)

9月20日発行

第1巻

第2号

通巻2号

# NEWS PICKS

## Magazine



### INTERVIEW

前田裕二

人生の必読書

### SPECIAL

ニューエリートの  
思考法

付録

NewsPicks

特製しおり

### FEATURE

## ニューエリートの必読書



落合陽一

高橋祥子

安田洋祐

西内 啓

朝倉祐介

楠木 建

山口 周

佐渡島庸平

成毛 真

高濱正伸

ビル・ゲイツ

マーク・ザッカーバーグ

ジェフ・ベゾス

ラリー・ペイジ

ティム・クック

イーロン・マスク

ウォーレン・巴菲特

ピーター・ティール

巴拉ク・オバマ

スティーブ・ジョブズ

RECOMMENDED BOOKS ON  
**EDUCATION**

教育

高濱正伸 花まる学習会 代表

## 子どもの生きる力を育てる

text by Masayo Nakano  
photo by Ukyo Koreeda  
books photo by Motoko Endo

学習指導要領が改訂され、教育の現場では「生きる力」を育むため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善を迫られている。保育所保育指針・幼稚園教育要領も改訂され、今春から新要領に基づいた保育・指導が始まった。IQや学力テストでは測れない「目標に向かってやり抜く力、忍耐力、協調性」といった「非認知能力」を伸ばすことが新たな指導目標に据えられたが、戸惑う保育者も少なくない。

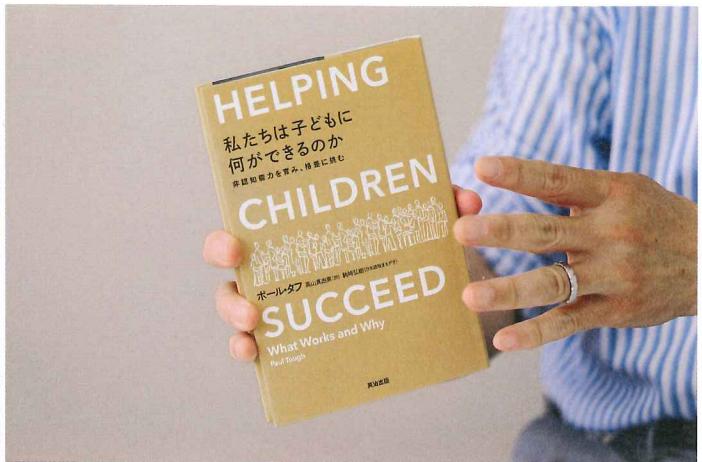
### 非認知能力をどう伸ばすか

「非認知能力を伸ばせと言われても、先生自身がその概念を習ってきていないわけで、どう伸ばせばいいのかわからなくて当然です。私はそれらの必要性をずっと主張してきましたが、データやエビデンスがないとなかなか世の中は動かない。やっと時代が追いついたって感じですね」

そう話すのは、花まる学習会代表の高濱正伸氏だ。25年以上も前から「思考力・判断力・表現力等を含む生きる力」を育てる教育を取り組んできた。非認知能力こそが「生きる力」につながり、学力の土台になると説明する。

その高濱氏が、教育分野の必読書として選んだ10冊のうち、まず概論として薦めるのが、『私たちは子どもに何ができるのか』





### [概論]

『私たちは子どもに何ができるのか 非認知能力を育み、格差に挑む』  
ボール・タフ／著  
高山真由美／訳  
英治出版

教育に携わるなら押さえておきたい1冊。ジャーナリストの視点で、現代的な課題が取り上げられ、「非認知能力」をどう育てるのか、最新の研究や先進事例がまとめられている。「教育においては、人的環境としての親が最重要ファクターであることを一番のテーマとしているところも必読ポイント」。



『知つてゐるつもり 無知の科学』  
スティーブン・スローマン、  
フィリップ・フーンバック／著  
土方奈美／訳  
早川書房

私たちは自分が受けた教育や我が子の情報だけで教育を語りがち。何かを語ろうとするときに、いかにもわからぬまま議論しているかを知らしめ、思考の方法を認知科学者が教えてくれる。「わかったつもりにならないと前に進めない」という人間の思考と行動の特性についても触れられている。



### [数学]

『数学する身体』  
森田真生／著  
新潮社

小林秀雄賞を最年少で受賞した著者は、30代前半の研究者。「言葉のセンスが良く、数学の楽しさや面白さが伝わってくる」。数学を「身体的な営み」として捉え、指で数えるところから始まった計算の道具としての数学が、AI時代の到来によって「何であり得るか」など、哲学的に考察している。



『オイラーの贈物——人類の至宝e^i\pi=-1を学ぶ』  
吉田 武／著  
筑摩書房

数学の独習書を手がけるサイエンスライターが数学の醍醐味を素人に向けて解説。虚数、指数関数、三角関数といった数学の基礎が高度な「オイラーの公式」へとつながっていく。「数理的思考力を伸ばしたいなら、これくらいは読んでほしい。同じ著者の名著『虚数の情説』も必読です。」



『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』  
新井紀子／著  
東洋経済新報社

著者は、東大合格を目指したAI「東口ボくん」の開発者。最近の学生の読解力のなさは、教育現場の大きな課題であり、数理的思考力の育成以前の問題だと指摘。「AIをむやみに恐れるより、もっと足元を見ないといけない。子どもたちは算数の問題を解く前に、文章が読めないといいんです。」

## RECOMMENDED BOOKS ON EDUCATION

**Masanobu Takahama** 1959年熊本県生まれ。東京大学院農学系研究科修士課程修了。「メシが見える大人」の育成を目指し、93年花まる学習会を設立。95年には進学塾のスクールFCを設立。算数オリンピック委員会及び日本棋院理事を務める。障害児の学習指導や引きこもりの相談を受けるNPO法人「子育て応援隊むぎぐみ」を運営。教育や子育てに関する著書多数。

### [教育現場]



『修身教授録 現代に甦る人間学の要諦』  
森信三／著  
致知出版社

「国民教育の師父」と謳われた哲学者で教育家の著者が、戦前、大阪府天王寺師範学校(現・大阪教育大学)で、教師を目指す学生に向けて行った「修身」の講義をまとめた1冊。誇り高き教育家の人生論であり、教育界のみならず企業の経営トップで愛読書として挙げる人も多い。



『エミール』  
ルソー／著  
今野一雄／訳  
岩波書店

現代の教育に通じる問題点を語り尽くしている古典。例えば、買いたい過保護の悪影響について。「子どもをダメにしたければ、欲しがるものすべてを与えよ」といった箴言が満載です。過保護の残酷さも見抜いている。子どもにはケガしない程度の冒險をさせないといけない。



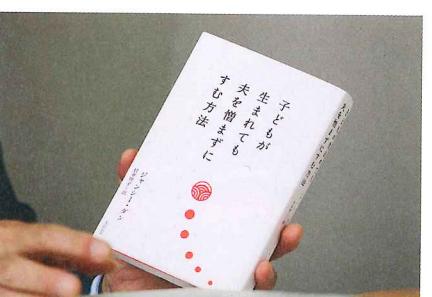
『学校は行かなくてもいい 親子で読みたい正しい不登校のやり方』  
小幡和輝／著  
健康ジャーナル社

地方創生のニューリーダーである著者が約10年間の不登校を経て高3で起業した自身の体験談と、現在、社会で活躍している不登校経験者の体験談を収録。「正しい不登校」なら、社会人として活躍できる道も開けることが提示され、ネガティブに語られやすい不登校問題の捉え方が変わる。



『藤原和博の必ず食える1%の人になる方法』  
藤原和博／著  
東洋経済新報社

リクルートから公立中学の校長へ転身し、複数のキャリアを築く著者が、普通の子が生き抜くための方法を示す。100人に1人のレアな人間になれば食べていける。100人に1人の技を3つ持てば、100万人に1人にも成り得ると説く。「複数の強みを掛け合わせることが重要なんです。」



『子どもが生まれても夫を憎まずにすむ方法』  
ジャン-クロード・ダン／著  
村井理子／訳  
太田出版

子どもの最大の環境である「親」が陥りやすい問題を鋭く考察する1冊。「子どもの問題にずっと取り組んできましたが、親を変えないと話にならない」ところに行き着いた。理解し合える夫婦関係を築くために、特に男性は結婚と同時に読んでほしい。